

# 道 -ROAD-

大阪学芸中等教育学校  
校長室だより

## 何も咲かない冬の日 下へ下へと根を伸ばせ

今年1年を振り返ると、新型コロナウイルスの影響で、日本や世界が大きく揺れた大変な1年でした。国の非常事態宣言、全国の学校の一斉休業、東京オリンピック・パラリンピックの1年延期、全国規模の大会の中止など、歴史的な出来事が多くありました。学校も文化祭の中止や海外へ出かける行事の中止など、様々な制約を余儀なくされました。

現在も新型コロナウイルスの感染は止まらず、多くの人々の生命が失われています。日本ではコロナ禍の第3波で、感染者数は拡大し続けています。大阪府でも、12月3日にレッドステージに移行し、不要不急の外出の自粛など様々な取り組みが要請され、「静かな年末年始」を過ごして欲しいと呼びかけています。

12月に入り、今年の流行語大賞は「3密」、今年の漢字は「密」と発表されました。今年の漢字は、14日に清水寺で森清範(もりせいはん) 貫主の揮毫により発表されました。揮毫後、森貫主は「密には親しむという意味が含まれている。物理的には離れているが、心はしっかりしたつながりを持っていきたい」と話されています。

※貫主(かんす) …寺の総本山の代表者となる住職 ※揮毫(きごう) …毛筆で文字や絵をかくこと

私たちはこれだけ長期間の自粛生活を求められ、ストレスや先が見えない不安を感じる毎日を過ごしています。新しい生活様式のソーシャルディスタンスは、物理的距離を指していますが、不安が渦巻く今の社会において、**心の距離はむしろ縮めることが必要**ではないでしょうか。

最も大切なことは、「命を守ること」「健康・安全に生活すること」です。冬休み中もコロナ対策を万全にして欲しいと思います。

さて、終業式で話をした言葉を紹介します。

「何も咲かない冬の日には下へ下へと根を伸ばせ」という言葉です。

この言葉は、2000年のシドニーオリンピックで日本女子陸上界初の金メダルをとったQちゃんの愛称で知られる高橋尚子さんの座右の銘です。高橋さんがまだ無名の頃、高校時代の陸上部監督から贈られた言葉です。高橋さんはこの言葉を練習の支えとしたようです。いくら練習しても記録が伸びないような時に、この言葉を自分に言い聞かせながらひらすら日々の地道な努力を積み重ねたそうです。恩師がこの言葉に「**やがて大きな花が咲く**」とつけ加えました。それ以来、どんなに厳しい時期も耐えて努力を続ければ、いつかは報われるという意味になり、広く知られるようになりました。やがて来る春や夏のために、冬にしかできないことに全力を尽くし、いつかのためでなく**今をしっかり生きることが大切か**と思います。

先日、自宅で本を整理していると一冊の本が目にとまりました。京都にある大徳寺大仙院の前住職 尾関宗園さんの『平常心』という本です。その本の中に、前に紹介した言葉に通ずる「**今こそ出発点**」という言葉があり、「わたくし自身の将来は 今この一瞬 ここにある **今ここで頑張らずにいつ頑張る**」と問いかけています。

今新型コロナウイルスの影響で、焦ったり諦めたりしがちですが、苦しい時に踏ん張って頑張るからこそ根が伸びてきます。根を伸ばすことを続ければ、やがて大きな花が咲くことでしょう。

後1週間で、新しい年2021年(令和3年)が幕を開けます。一日も早いコロナの終息を祈りつつ、新鮮な気持ちで新しい一歩を踏み出してください。